



# 大阪大学環境報告書

地域に生き世界に伸びる

# 2009



## 目次

- 3 …… 大学概要
- 4 …… 総長からのメッセージ
- 5 …… 環境への考え方
- 6 …… 環境目標と実績
- 7 …… 事業活動の環境への影響

### 環境パフォーマンス

- 8 …… 省エネルギーと地球温暖化防止への取り組み
- 10 …… 廃棄物削減への取り組み
- 12 …… 化学物質の適正な管理
- 13 …… 省資源への取り組み

### その他の取り組み

- 14 …… 安全・安心への取り組み
- 15 …… 教育・研究・課外活動
- 16 …… 学内での取り組み
- 17 …… 地域社会への取り組み
- 18 …… おわりに
- 19 …… 環境省「環境報告ガイドライン(2007年度版)」対照表

## 編集方針

大阪大学の環境保全活動を体系的にまとめ、定期的に公表することで社会に対し説明責任を果たし、利害関係者(ステークホルダー)の理解を得るとともに、大学構成員全体で協働により環境負荷提言活動を促進するための教育ツールとして活用することを目的としています。

本報告書は、「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律(環境配慮促進法)」に基づき、環境省の「環境報告ガイドライン(2007年度版)」、「環境報告書の記載事項等の手引き」(第2版)を参考に作成しています。

対象組織: 国立大学法人大阪大学

対象範囲: 吹田キャンパス、豊中キャンパス、箕面キャンパス

対象期間: 2008年度(2008年4月～2009年3月)

参考にしたガイドライン等:

環境省「環境報告ガイドライン(2007年度版)」

「環境報告書の記載事項等の手引き」(第2版)

連絡先

大阪大学施設部管理計画課

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1

TEL 06-6879-7137

Email [sisetukanrihozen@ns.jim.osaka-u.ac.jp](mailto:sisetukanrihozen@ns.jim.osaka-u.ac.jp)

URL <http://www.osaka-u.ac.jp/>

発行年月 2009年9月 次回発行予定 2010年9月

# 大学概要 (2008年5月1日現在)

学校名 国立大学法人大阪大学  
 所在地 大阪府吹田市山田丘1-1  
 設立 1931年(昭和6年)  
 総長 鷺田 清一  
 (2007年8月26日～)



職員数 教員 : 2,877人  
 教員以外の職員 : 2,369人  
 非常勤職員 : 3,146人



学生数 学部学生 : 16,204人  
 大学院(博士前期および修士) : 4,850人  
 大学院(博士後期および修士) : 3,187人  
 外国人留学生 : 1,385人



キャンパス 豊中地区 : 445,851.08m<sup>2</sup>  
 吹田地区 : 996,659.32m<sup>2</sup>  
 箕面地区 : 145,125.08m<sup>2</sup>  
 中之島地区 : 1,000m<sup>2</sup>  
 その他 : 80,248.06m<sup>2</sup>

学部等 11学部、15研究科、5附置研究所、  
 20学内共同教育研究施設、3全国共同利用施設等

豊かな人材を育成し、教育・研究活動を通じて  
持続可能な社会の実現を目指します



国立大学法人大阪大学総長

就田清一

大阪大学は、「懐徳堂」の自由な学問的気風や「適塾」の先見性を精神的な柱として受け継ぎ、1931年(昭和6年)に帝国大学として創設されました。以来、70余年の歴史を刻みつつ、常に世界最先端を目指した教育研究を実践し、かつ人類の知的水準の向上に寄与し続け、教育研究活動を通じて社会の安寧と福祉、世界平和、人類と自然環境の調和に貢献して参りました。

今日の我々の生活は、エネルギー資源をはじめとする各種資源の利用により成り立つ資源消費型のライフスタイルです。しかし、経済・技術の発展や生活水準の向上に伴い、これら資源の利用は増大し、環境問題をはじめとする様々な問題は、

地球規模へと拡大しています。従来的大量生産・大量消費・大量廃棄の社会システムから、循環型の持続可能な社会システムへの変革が、今まさに求められています。

現代社会が抱え込む種々の問題は、かつてのように政治・経済レベルのみで対処できるものではなく、また特定の地域や国家に限定して処理しうる問題でもありません。世界規模での、あるいは地域における、文化への根源的な問いかけが必要です。そして、それを認知し実行できるような、専門的知識・広い見識・柔軟なセンスを身につけた人材を育成し輩出することが、大学が果たすべき重要な役割の一つであると考えます。

大阪大学では国立大学法人として、教育研究活動を通じてその成果を社会に還元し、国民と社会の負託に応えていく為にも、「地域に生き世界に伸びる」を基本理念に、社会的貢献をはじめとする責務を果たすべく、環境保護推進活動を重要活動の一つと位置付け、持続可能な社会の構築を目指した取り組みを、今後一層進めて参ります。



# 大阪大学では、環境方針に基づき 環境保全活動や人材育成に取り組んでいます

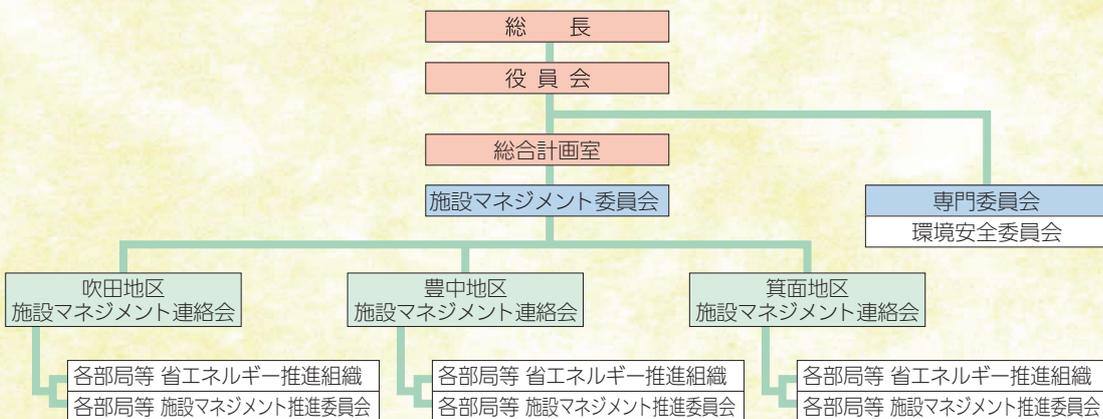
## 環境方針

大阪大学は、常に新たな試みに果敢に挑戦し、「教養」、「デザイン力」、「国際性」の3つの教育目標を柱に、「地域に生き世界に伸びる」を基本理念として、社会の安寧と福祉、世界平和、人類と自然環境の調和に貢献しています。また、大阪大学は、今までも種々の分野で世界水準の研究者の養成を担ってきましたが、今後は地球環境の保全と回復が人類共通の最重要課題の一つと認識し、個々の研究シーズを地球、社会、人間という3つのシステムのサステナビリティを高めるという方向づけに沿ってグランドデザインとして形づくることを目指します。このグランドデザインのもと、循環型社会システムの構築や環境リスク管理に寄与できる人材育成にも積極的に取り組んでいきます。

そこで大阪大学は、様々な教育・研究活動が行われているキャンパス内において、以下の環境保全活動を積極的に推進します。

1. 教育研究をはじめとするあらゆる大学活動において、環境に関する法規等をその法の精神に則り遵守し、環境保全に努めます。
2. 教育研究をはじめとするあらゆる大学活動において、地球温暖化対策の推進、グリーン購入の推進、エネルギー使用量の削減、廃棄物発生量の削減及び資源のリサイクルに努め、「大阪大学循環型社会システムの構築」を地域と連携して取り組み、地域社会の模範的役割を果たします。
3. 環境負荷の少ない緑豊かなキャンパス環境を整備するとともに、地域社会との連携を通じた「キャンパス・サステナビリティ」の実現に努めます。
4. 環境保全活動を積極的に推進するため、本学の全構成員の認識のもと、その参画を促し、継続性のある環境マネジメントシステムの確立を目指します。
5. 周辺地域環境との調和・共生を図るため、周辺地域を含めた環境関連情報を定期的に把握するとともに、それを積極的に公開し、環境保全の取り組みへの理解と協力を求めます。

## 大阪大学環境マネジメント体制



# 目標達成に向け 今後も環境保全活動に努めます

大阪大学環境方針に基づき、環境への影響が大きいと考えられる項目に対し、環境配慮の計画の策定が望まれます。2008年度は下記の表に記載している内容について、取り組みを行いました。環境方針を計画的に達成するため、項目や目標について、適時見直しを行い、環境保全に取り組んでいきます。

## ■2008年度の環境目標と実績

環境方針	項目	目標	実績等	掲載ページ
1、法律等の遵守	産業廃棄物処理	マニフェストに基づく管理の徹底	適正に実施	P10-P11
	化学物質の取り扱い	薬品管理システムの運用の促進	薬品データベースの更新	P12
	アスベスト対応	吹付け材の実態調査および除去	実施済	P12
	PCB対応	適切な保管・管理	大阪府へ届出済	P12
2、環境負荷低減	エネルギー使用量	電力使用量の前年度比床面積原単位1%削減	豊中 1.7%減 吹田 0.7%増 箕面 —	P8
	グリーン購入推進	特定調達物品の目標100%	目標達成	P13
	廃棄物リサイクル	一般廃棄物のリサイクル率向上	豊中 56.9%(+18.2%) 吹田 40.6%(+0.7%) 箕面 26.8%( — )	P10
3、キャンパス・サステイナビリティの実現	地域社会との連携	地域と協力して環境保全に関する活動を行う	緑のデザイン賞「緑化大賞」を受賞	P17
4、環境マネジメントシステムの運用	大学構成員(教員、職員、学生)の意識向上	学内への情報発信	大阪大学環境報告書2008の公表 環境月間講演会の開催 防災訓練等の実施	P14
5、周辺地域との情報の共有	周辺地域への情報公開	周辺地域への情報発信	大阪大学環境報告書2008の公表 大阪大学公式HPの随時更新	—

# 環境へ与える影響を把握し、 環境負荷削減に取り組んでいます

大阪大学では環境負荷の削減を重要課題と位置づけ、その基本となる環境負荷データの収集を行っています。



大阪大学の教育・研究活動  
および地域社会活動

## INPUT

### エネルギー投入量



電力使用量	204,878MWh
ガス使用量	8,649千m <sup>3</sup>
ガソリン購入量	2,473ℓ



紙使用量	403t
------	------



水使用量	1,217千m <sup>3</sup>
------	----------------------

## OUTPUT



CO <sub>2</sub> 排出量	94,224t-CO <sub>2</sub>
---------------------	-------------------------

### 廃棄物排出量



事業系一般廃棄物	2,593t
産業廃棄物	5,107m <sup>3</sup>
特別管理産業廃棄物	704t



排水量	1,166千m <sup>3</sup>
-----	----------------------

# 省エネルギーと地球温暖化防止への取り組み

大阪大学では、エネルギー使用量の削減による地球温暖化防止に努めています。

大学概要

総長からのメッセージ

環境への考え方

環境目標と実績

事業活動の環境への影響

環境パフォーマンス

その他の取り組み

## 電気使用量削減のため 全学的な省エネ活動を行っています

大阪大学では、教育研究環境の質を低下せずは無駄を排除する省エネ活動の推進を継続しています。エアコンの温度設定やこまめな消灯など、身近な取り組みを全学に広め、大学構成員全体で省エネ意識を高めています。2008年度の電力使用量は2007年度に比べ、約2%増加しました。教育研究環境の充実のため、新しい研究棟の整備等によりエネルギー使用量は増加していますが、原単位当たりの使用量については、吹田キャンパスで0.7%の増加、豊中キャンパスで1.7%の削減となっています。

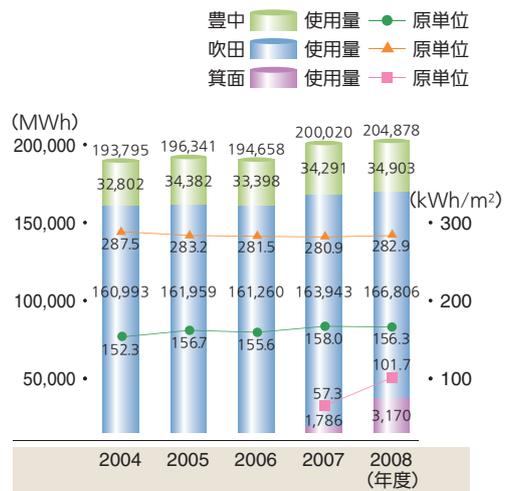
2007年7月より大学ホームページに「週間でんき予報」を掲載しました。予報は、過去の電力データ及び予想最高気温を参考にして算出した一週間の予想電力量を掲載し、「ワニ教授」が様々な表情で節電を呼びかけています。



大学教育実践センターのキャラクターとしておなじみの「ワニ教授」



### ● 電力使用量合計

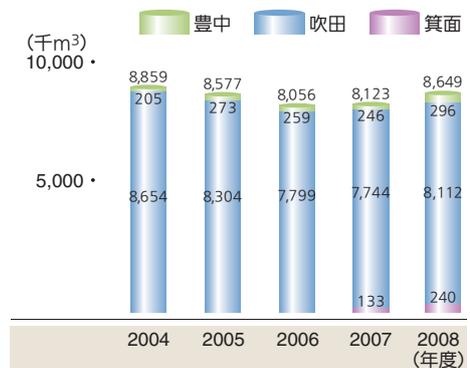


## ガス使用量も省エネ活動に 取り組んでいます。

2008年度のガス使用量は2007年度に比べて増加しました。ガスは大部分を空調に使用しており、新しい研究棟の整備等により、空調面積が増えたことにより増加したと考えられます。



### ● ガス使用量合計(都市ガス)





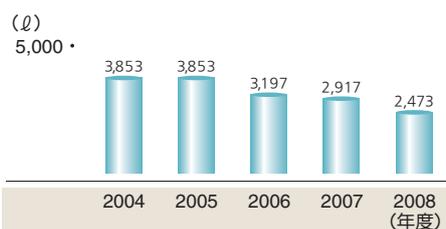
### 天然ガス車の導入などで、 ガソリン購入量を削減しました

2008年度のガソリン購入量は2007年度に比べ、約440ℓ減少しました。天然ガス車やハイブリッド車の導入、またキャンパス連絡バスの利用促進などの取組の効果が現れ、ガソリン購入量は着実に減少しています。



天然ガス供給装置

#### ● ガソリン購入量



### 温室効果ガス排出量削減に 取り組んでいます

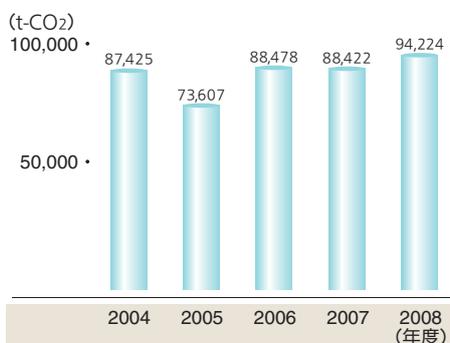
2008年度の温室効果ガス排出量は2007年度に比べ増加しました。

2008年度から通年で、箕面キャンパスの排出量が増加したこと、電力会社のCO<sub>2</sub>排出係数<sup>※</sup>が増大したことにより、温室効果ガス(CO<sub>2</sub>)排出量は増加しました。

2008年度から「環境配慮契約法」に基づく温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約(環境配慮契約)を実施しています。



#### ● CO<sub>2</sub>排出量



電力のCO<sub>2</sub>排出係数 / 使用した電力によるCO<sub>2</sub>排出量を算出するための単位電力量当たりの係数。  
本報告書では、電力会社が毎年度公表する、販売電力量当たりのCO<sub>2</sub>排出量を採用しています。

# 廃棄物削減への取り組み

分別の徹底とリサイクルにより廃棄物削減に取り組んでいます。

大学概要

総長からのメッセージ

環境への考え方

環境目標と実績

事業活動の環境への影響

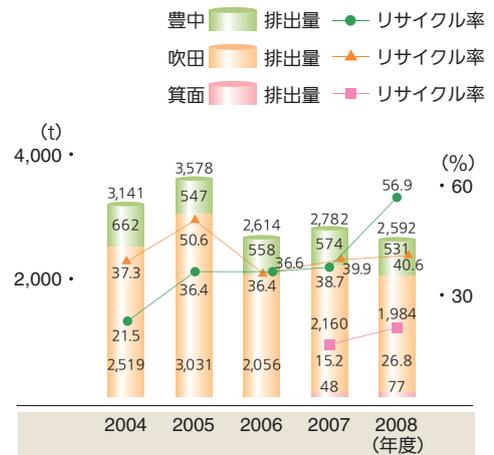
環境パフォーマンス

その他の取り組み

## 廃棄物排出量を削減及び再資源化に取り組んでいます

2008年度の事業系一般廃棄物量は2007年度に比べ、約200t削減することができました。また、リサイクル率についても2007年度より上昇し、豊中地区においては約57%と非常に高い結果となりました。今後も引き続き、ゴミの減量やリサイクルに取り組めます。

● 事業系一般廃棄物排出量とリサイクル率



## 産業廃棄物についても manifests の交付状況を報告しました

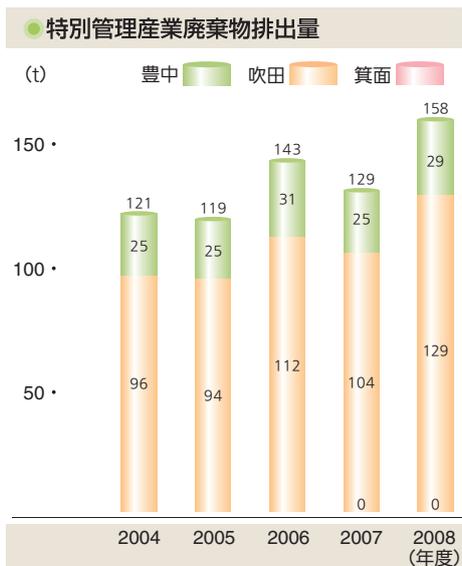
2008年度の産業廃棄物量は2007年度に比べ600m<sup>3</sup>減少しました。また「廃棄物処理法」に基づき、2008年度に交付された、manifestsの交付等の状況を大阪府知事へ報告しています。

● 産業廃棄物排出量



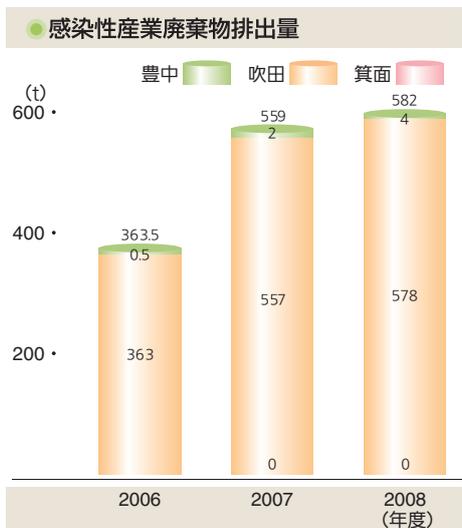
### 特別管理産業廃棄物について、 適正な管理と処理を行っています

2008年度の特別管理産業廃棄物量は2007年度と比べ、29t増加しました。特別管理産業廃棄物についても、関連法令に基づき、大阪府知事へ報告しています。



### 感染性産業廃棄物(特別管理産業廃棄物)も 適正な管理と処理を行っています

2008年度の感染性産業廃棄物は2007年度と比べ、ほぼ横ばいでした。附属病院での医療活動や各部局での研究活動において、感染性産業廃棄物が発生しますが、関連法令に基づき適切に処理を行っています。



# 化学物質の適正な管理

大阪大学では法に基づき、化学物質を適正に管理するとともに排出量削減に努めています。

## PRTR法<sup>\*</sup>に対応した化学物質の排出量把握と届出を行っています



大阪大学では関連法令に基づき、化学物質の排出量を把握し公表を行っています。自主管理を徹底するとともに、地域の環境リスク軽減に努めています。

2008年度の化学物質排出量・移動量は表の通りです。

### ■届出化学物質とその排出量・移動量

(kg)

化学物質の名称	豊中キャンパス			吹田キャンパス				
	クロホルム	ジクロロメタン	トルエン	アセトニトリル	エチレンオキド	クロホルム	ジクロロメタン	
政令番号	95	145	227	12	42	95	145	
排出量	イ. 大気への排出	550	390	120	80	9.3	550	730
	ロ. 公共用水域への排出	0	0	0	0	0	0	0
	ハ. 土壌への排出(二以外)	0	0	0	0	0	0	0
	ニ. キャンパスにおける埋立処分	0	0	0	0	0	0	0
移動量	イ. 下水道への移動	1.9	2.0	4.5	160	0	3.5	3.2
	ロ. キャンパス外への移動(イ以外)	3,000	2,000	1,700	1,700	0	6,000	6,200

### ■薬品管理支援システムを更新しました

大阪大学薬品管理支援システム(OCCS)の運用からすでに5年が経過し、すでに18万本を越す薬品が登録されています。平成20年度にハード・ソフトシステム更新を実施しました(OCCS-II)。更新により大阪府の改正「生活環境の保全に関する条例」に適切に対応できるほか、今後、所有する高圧ガスボンベの管理も行っていきます。また学生、研究者が薬品を登録する際に、従来のバーコードリーダーによる登録方法に加えて携帯電話でも登録できるよ

うになり、ネットワークが整備されていない環境でも薬品の適正な管理が可能になりました。この新機能(OCCS Mobile Appli)は全国的に先がけて導入されたシステムとしてモバイルコンピューティング推進コンソーシアムからMCPC award 2009奨励賞が授与されました。



## アスベストの適正処置を行っています



飛散性アスベストについては、除去などの飛散防止処置を適切に行っています。また、改修工事などの際は、アスベスト含有の有無を調査し、含有する

場合は石綿障害予防規則(平成17年厚生労働省令第21号)に基づき、適切に処置を行っています。

## PCBは法に基づき適切に保管・処理を進めます



大阪大学では、PCB(ポリ塩化ビフェニル)を「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適切な処理の推進に関する特別措置法(PCB特別措置法)に基づき、特定

の保管場所に適切に保管しています。保管しているPCBについては、大阪府へ届出を行い、法律が定める処理期限までに適切に処理します。



PRTR(Pollutant Release and Transfer Register)法/有害性のある化学物質の排出・移動量を把握、集計し、公表する制度

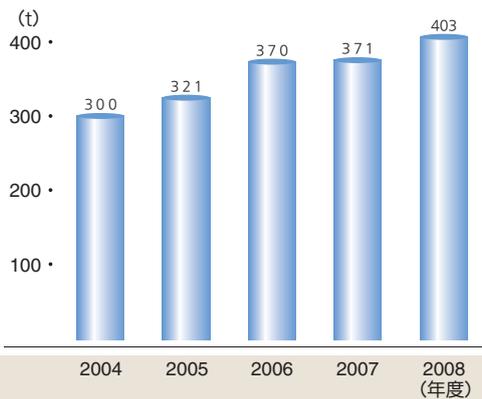
# 省資源への取り組み

大阪大学では環境保全のため、省資源活動に積極的に取り組んでいます。

## 配布文書の電子化を推し進め、ペーパーレス化を図っています

2008年度は昨年度に引き続き、大阪大学学内専用ポータルサイトによる事務局から教職員への一般通知を実施することにより、配布文書の電子化の推進を図り、また各種会議資料、報告書等のWEB上で閲覧の推進、コピー用紙の裏紙使用や両面コピーの利用促進など紙使用低減に努めています。また2008年度の紙類のリサイクル率は99.4%で、環境負荷を低減する努力を行っています。

### ● 紙購入量



## さまざまな節水対策により水使用量削減に努めています

2008年度の水使用量は2007年度に比べて約3%減少しました。建物の改修に伴い増加している自動水栓やトイレの擬音装置、節水タイプのフラッシュバルブによる節水効果や、実験用冷却水の循環冷却装置の導入の効果が着実に現れています。

### ● 水使用量



## グリーン購入・調達の100%を達成しています

大阪大学では、環境に影響の少ない製品を優先的に購入するグリーン購入・調達に取り組んでいます。調達の推進を図るための方針を定め、目標値には100%を設定しています。目標設定を行う品目に

についての調達実績は2008年度も100%を達成しており、可能な限り環境への負荷の少ない物品等の調達に努めています。

# 安全・安心への取り組み

大阪大学では、学生や教職員の安全と健康に配慮した教育環境の整備に努めています。

大学概要

総長からのメッセージ

環境への考え方

環境目標と実績

事業活動の環境への影響

環境パフォーマンス

その他の取り組み

## ■ 平成20年度春季安全衛生集中講習会(安全系・健康系)実施



5月19日～6月6日にかけて、平成20年度春季安全衛生集中講習会(安全系・健康系)を豊中・吹田・箕面の各キャンパスで実施しました。

安全系の講習会では、化学物質、高圧ガス、低温寒剤、核燃料物質、酸素欠乏等のテーマについて、事故予防の

ための具体的な措置等の説明がありました。健康系の講習会では、メンタルヘルス、長時間労働、化学物質、メタリック、VDT、タバコ、応急手当、海外渡航等のテーマについて、健康管理上の注意点等の説明がありました。

参加者は、全日程で1,351人でした。

## ■ 平成20年度大阪大学安全衛生講演会開催



10月3日基礎工学部シグマホールにおいて、平成20年度大阪大学安全衛生講演会を開催しました。この講演会は、大阪大学安全衛生週間(10/1～10/7)等にあわせて毎年開催しているものです。

今年度は、武井 勲安全衛生管理部特任教授(リスク管理)を講師に迎え、「大学におけるリスク・マネジメントと

危機管理について」と題して、大学におけるリスク・マネジメントや国立大学時代と法人時代のリスク・マネジメントの違い等について具体的な事例を踏まえた説明がありました。参加者からも積極的な発言があり、活発な質疑応答が行われました。当日は、約70名の参加がありました。

## ■ 環境月間における公開の講演会を行なっています



化学物質は人類生活には不可欠なものですが、使い方を間違えると大きな害を及ぼします。化学物質が起因となる環境問題はエネルギー問題にも密接に関連し全地球的な課題です。大阪大学では環境月間(6月)に、環境問題を専門とする内外の外部講師を招いて、環境月間講

演会を開催しています。講演会は学内のみならず、市民開放講座として広く近隣社会へも案内しています。

(平成20年度 講師:兵庫県立健康環境科学研究センター 安全科学部長・水質環境部長の中野 武先生

演題:有機ハロゲン化合物による環境汚染)

## ■ 耐震改修



新耐震基準(昭和56年建築基準法改正)以前に建設された建物で、耐震性能が劣ると判断された建物について、第2次国立大学等施設緊急整備5か年計画(文部科学省)において示された整備方針に基づき、耐震改修整

備を進めています。

2008年度は、総合図書館、理工系図書館、工学部管理棟、産研第1研究棟、蛋白研本館の耐震改修を実施し、安全・安心な教育研究環境の整備に努めています。

## ■ 防災訓練等実施



11月11日に箕面キャンパスにおいて、平成20年度大阪大学防災訓練を実施しました。今年度の訓練は、箕面市消防本部と合同で企画・実施したものです。訓練は、平日の昼間帯に、東海、近畿、及び四国の広い範囲で震度6弱の地震が発生したことを想定し、避難訓練、災害対

策本部設置訓練、初期消火訓練、応急救護訓練等を行いました。また箕面市消防本部の隊員による、はしご車救助訓練、放水訓練、応急救護所(エアータント)設置訓練、トリアージ(治療を優先すべき患者の選別)訓練等が行われました。

## ■ 学生、教職員の健康を守るために実験室の作業環境の測定を実施しています



大阪大学では、化学物質に携わる研究に従事する学生、教職員の化学物質による癌、皮膚炎、神経障害その他の健康障害、有機溶剤などによる中毒を予防するために、法律(労働安全衛生法 特化則第36条、有機則第28条)に従って、作業環境の測定を行なっています。測定箇所

は該当する全ての研究場所で、その数は年間、のべ1,000カ所、測定項目約5,000にも及びます。各々の場所で取り扱う化学物質が異なるため、その場所に適した項目の測定を行なっています。測定は専門機関により実施され、定められた評価に基づき相当する措置を講じています。

# 教育・研究・課外活動

大阪大学では環境に関する教育・研究・課外活動に力を入れています。

## ■ シンポジウム「低炭素社会を目指す環境まちづくり」開催

サステナビリティ・サイエンス研究機構(RISS)は1月15日、大阪大学中之島センター10階の佐治敬三メモリアルホールで、シンポジウム「低炭素社会を目指す環境まちづくり」～まちづくり編～『低炭素社会を展望する環境都市づくり』を開催しました。



馬場章夫RISS機構長の開会挨拶に続き、基調講演では早稲田大学名誉教授・元日本建築学会長の尾島俊雄先生から「低炭素社会と環境都市」について東日本と西日本のヒートアイランド現象の違い、ライフスタイルの転換、日本独自の文化を基礎とした都市のあり方等、様々な事例を交え価値観の転換が重要なことをお話し頂きました。

また、環境モデル都市に選定された横浜市と北九州市からは具体的なCO<sub>2</sub>削減の取組みについて、市民と産業界が一体となったモデル例の説明がなされました。パネルディスカッションでは大阪市、堺市、大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進協議会から、CO<sub>2</sub>削減活動、新交通システムの導入、ビジネス街でのワークスタイルや環境対策活動といったまちづくりの事例紹介を頂き、工学研究科の教員からコメントがありました。参加者は140人にのぼり、最後には低炭素社会を目指す環境まちづくりに向けた宣言文(案)が発表され、非常に意義深い機会となりました。

## ■ 適正な実験系廃液の処理を行っています

大阪大学では研究・教育などの活動により排出される廃液を厳格に処理しています。有機廃液は化学的性質により4種類に分けて分別回収し、定期的に(毎月1回)、専門の業者に委託し適正に処理しており、環境への排出を最小限に食い止めるように努力しています。無機系廃液は定期的に(年10回)回収し、吹田地区に設置されている無機廃液処理施設で処理しています。また処理施設は学内学生へも授業の一環として見学解放しており、教育面においても活用しています。



無機廃液処理施設見学の様子



有機廃液の回収作業の様子

## ■ 体育会が豊中キャンパス学内清掃実施

大阪大学体育会に所属する課外活動団体の学生(38団体・100名)が12月20日の青空の下、豊中キャンパス全域に分かれて学内清掃を実施しました。

この学内清掃は、学生の環境問題に対する意識を高めることを目的として体育会が中心となって毎年実施していますが、学生自らがキャンパスの清掃を行うことで、大学に対する愛校精神も育まれ、課外活動への一層の意欲の醸成が期待されます。



# 学内での取り組み

学部や生協でも独自のさまざまな取り組みを行っています。

大学概要

総長からのメッセージ

環境への考え方

環境目標と実績

事業活動の環境への影響

環境パフォーマンス

その他の取り組み

## ■ 生協ではペットボトルや紙カップなどワンウェイ容器の回収を推進しています



大阪大学生協では、ワンウェイ容器の回収に取り組んでいます。デポジット制を導入しているペットボトルの2008年度の回収率は53%と2007年度と同じでした。また紙カップの回収率は84%と2006年度と同程度となりました。PETボトルリサイクル推進協議会によれば、国内

の回収率は60%を越えており、これに追いつくことを目標に、また紙カップについては回収率の低い場所での個別のプロモーション等を行うことで回収率の増加を目指して取り組みを継続・発展していきます。

## ■ 理学研究科・理学部環境美化実施



理学研究科・理学部では、学内環境美化の一環として、9月25日に理学研究科周辺の清掃を実施しました。多数の教職員・学生の参加があり、用意した350人分の軍手やゴミ袋が瞬く間になくなりました。

パスライフを送れるよう、美化意識の高揚を図ることを目的として行っているものです。

当日は、曇天で少し肌寒い中、多数の教職員、大学院学生、学部学生及び外国人留学生等総勢約400名が一体となって約1時間にわたり、理学研究科・理学部構内を中心に豊中地区正門、大高の森付近の清掃区域で、空き缶、空き瓶、ペットボトル、タバコの吸い殻等のゴミ拾い及び除草作業等に精を出し、付近一帯が見違えるように綺麗になりました。

作業終了後はお茶を飲みながら歓談し、平素は教育研究の繁多にまかせてお互いに話す機会の少ない教職員、学生のコミュニケーションを深める場としても大いに役立ちました。

この清掃作業は、日頃忘れがちな環境美化に対する意識を再認識するとともに、教職員・学生が快適なキャン



## ■ 産業科学研究所環境美化(一斉大掃除)実施



産業科学研究所では、毎年恒例の所内環境美化のための一斉大掃除を11月25日に実施しました。施設委員会委員長の谷村克巳教授の挨拶に始まり、初冬の柔らかい陽射しながらも肌寒い中、総勢300名余りの教職員及び学生が一体となって、約2時間にわたり、研究所敷地内及び周辺一帯の通路の落ち葉拾いを中心に、排水溝などの土砂上げ、ゴミの収集作業などを行い、ビニール袋や土嚢袋に収められた大量の落ち葉や土砂等を4台のリヤカーを使って汗水流して運搬しました。

全衛生の観点から研究室周辺の廊下やエレベータ付近等についても、整理整頓を行い、環境美化に対する意識向上を図ることができました。

清掃が終わった後の所内は、見違えるようにきれいになり、参加者一同爽やかな気持ちとなりました。また、安



## ■ 理学研究科「ゴミ・化学薬品の廃棄及び実験上の安全に関する説明会」開催



理学研究科では、3月5日に理学部本館大講義室において、教職員・学生を対象として、「ゴミ・化学薬品の廃棄及び実験上の安全に関する説明会」を開催しました。

を受け、本研究科安全衛生管理委員会が主催し、事故再発防止と安全意識高揚を目的に実施したものです。参加した約200名の教職員・学生等は、熱心に聞き入り、会は成功裡に終わりました。

この説明会は、昨今のゴミ置場及び実験中の事故発生

# 地域社会への取り組み

開かれた大学をめざし、地域社会との連携を深めています。

## ■ 法に基づく実験系排水の水質検査を行っています

大阪大学では毎年、大学から排出される、実験系廃液を含む排水について豊中、吹田それぞれのキャンパスについて、水質汚濁防止法などの法律、条例に沿った水質検査を行なっています。測定項目は人の健康に係る被害を生ずるおそれがある物質(有害物質)や水の汚染状態を示す項目(生活環境項目)、PRTR届出対象物

質などについて検査しています。豊中地区については豊中市が行なう立入検査(年4回)に加え、大学による自主検査(年4回)を計8回行なっています。吹田地区については吹田市が行なう立入検査(年6回)に加え、自主検査(年6回)を計12回行なっています。



## ■ たけのこ保育園で消防訓練実施

12月4日に、たけのこ保育園で消防訓練を実施しました。保育園は消防法で個別に消防訓練が義務づけられている施設で、昨年4月に開園したたけのこ保育園で初めての訓練となりました。当日は、消防士の方から、避難誘導の仕方や消火器の使い方、防火管理の心構えなど、約1時

間にわたって指導を受けました。参加した保育士さんをはじめとする保育園のスタッフが真剣に訓練する中で、最初は非常に驚いていた園児たちも、消防士の方に順番にポンプ車に乗せてもらうと大喜びの顔になり、スタッフ、園児ともに実りある訓練となりました。



## ■ 新たな障害者雇用への取り組み—障害者雇用促進法に基づく障害者雇入れ計画の推進

「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき、障害者の雇用に積極的に取り組んでいく必要があります。

その取り組みの一つとして、14名の知的障害者の方を業務補佐員として採用しました。また、これらの方々の業務が円滑に行われるようにするため、一緒に作業を行いながら支援を行う非常勤職員を6名別途採用して

います。支援にあたる人たちといくつかのチームに分かれて、吹田キャンパスのメインストリートを中心とした清掃業務等を行っています。これから学内の環境美化に大いに力を発揮してくれるものと思っています。今後、清掃業務以外にも新たな職域の拡大を図るなど、更なる障害者雇用の促進に向けて検討を進めていく予定です。



## ■ 緑のデザイン賞「緑化大賞」を受賞

豊中キャンパス東口環境整備計画が第19回「緑のデザイン賞」の「緑化大賞」に選ばれました。この賞は、財団法人都市緑化基金と第一生命保険相互会社の共催により、地域社会の質的向上を目指し、全国から新たに提案される緑化プランを募集し、優秀なプランに対してその実現のための助成を行うために設立されたものです。

基礎セミナー「キャンパスデザインプロジェクト」で学生と地域住民の意見交換を行い計画に反映させたり、計画地周辺の通行量を調査した上で宮山町自治会や柴原まちづくり協議会と協同で、横断歩道設置要望を豊中警察に提出したり、豊中市の道路整備計画・敷地境界斜面の整備計画と協同検討を行い、隣接部分を豊中市に継続整備してもらうなど、学生教職員・地域住民・行政・警察と協議しながら、かつ敷地境界を越えた考え方をもって設計を進めてきました。

平成21年3月にスロープとその周辺部分が完成し、その後豊中市によって隣接する斜面部分の公園的整備が行われる予定です。

今回の受賞により大阪大学で整備予定の植栽の一部が助成されることとなりました。



## おわりに



国立大学法人大阪大学  
副学長 西田正吾

### 「環境」という幅広い課題に向かい 着実な努力を進めていきます。

大阪大学の環境に関する取組をまとめた環境報告書2009を作成致しました。

「環境」という言葉を耳にしない日がないくらい、「環境」が一般的なものになりました。近年の気候の乱れも、温暖化との因果関係は確かではありませんが、その影響を感じさせています。

エコ活動を代表する取組として、「節約」が思い浮かびます。無駄を省くことは、最も身近な取組であり、また最小限の取組です。大阪大学においても、「教育研究活動の質を低下することなく無駄を省く」ことをモットーに、必要なものについては維持しつつ、不必要なものを省く取組を継続しています。しかしながら、大学構成員の意識の向上と共に、無駄を省くだけでは省エネの成果が現れにくい状況となり、「節約」の次のステップへシフトする時期がやってきたと感じています。

大阪大学では大学構成員による日常的な取組を推進するだけでなく、大学という特色を活かし、環境に貢献できる技術の研究開発や、環境に貢献できる人材の育成・輩出等、教育研究活動を通じて、その責務を果たすべく取組を続けてまいります。

大阪大学環境報告書により、大阪大学の環境に対する考え方や取組状況を知って頂けるよう、今後も継続して報告を行います。

■環境省「環境報告ガイドライン(2007年度版)」対照表

ガイドライン項目		掲載ページ
基本的情報:BI	BI-1 経営責任者の緒言	P4
	BI-2 報告にあたっての基本的要件	
	BI-2-1 報告の対象組織・期間・分野	P2・P3
	BI-2-2 報告対象組織の範囲と環境負荷の捕捉状況	P2・P3
	BI-3 事業の概況(経営指標を含む)	P3
	BI-4 環境報告の概要	
	BI-4-1 主要な指標等の一覧	P6・P7
	BI-4-2 事業活動における環境配慮の取組に関する目標、計画及び実績等の総括	P6
	BI-5 事業活動のマテリアルバランス(インプット、内部循環、アウトプット)	P7
環境マネジメント指標:MPI	MP-1 環境マネジメントの状況	
	MP-1-1 事業活動における環境配慮の方針	P5、P18
	MP-1-2 環境マネジメントシステムの状況	P5
	MP-2 環境に関する規制の遵守状況	P12
	MP-3 環境会計情報	—
	MP-4 環境に配慮した投融資の状況	—
	MP-5 サプライチェーンマネジメント等の状況	—
	MP-6 グリーン購入・調達状況	P13
	MP-7 環境に配慮した新技術、DfE等の研究開発の状況	—
	MP-8 環境に配慮した輸送に関する状況	—
	MP-9 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	—
	MP-10 環境コミュニケーションの状況	P17
	MP-11 環境に関する社会貢献活動の状況	P14~P17
MP-12 環境負荷低減に資する製品・サービスの状況	—	
オペレーション指標:OPI	OP-1 総エネルギー投入量及びその低減対策	P7~P9
	OP-2 総物質投入量及びその低減対策	P7、P13
	OP-3 水資源投入量及びその低減対策	P7、P13
	OP-4 事業エリア内で循環的利用を行っている物質等	—
	OP-5 総製品生産量又は総商品販売量	—
	OP-6 温室効果ガスの排出量及びその低減対策	P7、P9
	OP-7 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	—
	OP-8 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	P12
	OP-9 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	P7、P10・P11
	OP-10 総排水量等及びその低減対策	P7
環境効率指標:EEI	環境配慮と経営との関連状況	—
社会パフォーマンス指標:SPI	社会的取組の状況	P14~P17

編集後記

大阪大学の2008年度の環境保全活動を紹介するため、大阪大学環境報告書2009を発行しました。

報告書の作成にあたっては、より多くの皆様に大阪大学の取り組みを理解していただけるよう、親しみやすい紙面を目指しました。皆様のご意見やご提案を参考に、今後も見直しを重ね、報告書だけでなく環境保全活動の質を高めることができるよう、継続して取り組みを進めていきます。

本報告書の作成にご協力いただきました学内外の関係者の皆様には、この場を借りて心よりの感謝を申し上げます。

大阪大学環境報告書2009

発行年月 2009年9月

発行 国立大学法人大阪大学

編集 大阪大学施設部管理計画課

〒565-0871

大阪府吹田市山田丘1-1

Tel 06-6879-7137

Fax 06-6879-7138

Email sisetukanrihozen@ns.jim.osaka-u.ac.jp



### 待兼山修学館

表紙の写真は豊中キャンパスにある待兼山修学館です。昭和6年に大阪帝国大学医学部附属病院の石橋分院本館として建てられ、その後医療技術短期大学校舎、医学部保健学科校舎として利用され、平成19年8月に改修を行い、総合学術博物館として再生しました。待兼山修学館は昔からその景観美を歌われた待兼山の山腹に建ち、丘の緑と歴史を背景にして潤いのあるすくれた景観を形成し、市街地にも近く市民に親しまれてきました。学校建築あるいは病院建築としても歴史的価値の高い建物であり、大阪大学の形成・発展を物語る上においても欠かせない建物であります。本施設は平成20年3月に登録有形文化財(建造物)に登録されました。



OSAKA UNIVERSITY